

沖縄国際映画祭は地元沖縄での開催ということで、夏には黙っていて人も来ますけど、人が来ない時期の3月に開催ということで非常に嬉しいです。僕が独身で20代の頃だったら、「芸能人が来て人もいっぱいのお祭り嬉しいです」ということを言ったと思うんですけど、40歳になって家族を持つと、沖縄にとつて何が本当に一番良いのかと真剣に考え出すじゃないですか。年取ってくると考え方が変わってきて、「あつ沖縄が潤う」とか考えてました。

沖縄が復帰40年であつたと感じるのは、夏は必ず断水があつたんですけど、今は断水がないと聞いてびっくりしました。かなりインフラが整備されたんですね。でも、沖縄の道路は渋滞しすぎです。空港からのうみそらトンネルはすばらしいと思いますので、それを嘉手納辺りからできればと思います。また、僕らの若い頃は国際通りがすごく賑わつていたし、沖縄で観光客が集まるという国際通りしかなかったんです。それが、人がいなくなりシャッターが多くなっているのは、思い出が失われていくようで悲しいです。

東京にいくと、もつと売れるためにとかもつと出世するために、土曜も日曜もないような生活をしている人が多いんですけど、沖縄の同級生と電話で話すと、土日は皆で集まってビーチパーティーやジェットスキーに乗りに行く計画を立てて楽しそうにしているんです。「お金の金持ち」は東京にいっぱいいますけど、沖縄には「心の金持ち」がいっぱいいます。ただ僕は、元気なうちはのんびりより刺激を求めていることに気付

いたんです。そうすると仕事の規模の大きさ、内容の濃さ、全て東京が勝っているんです。そうすると、東京で頑張つて疲れたときこそ沖縄に価値を感じるんだなつて。そういう意味でも東京で頑張りがちで、東京でしかできない大きな仕事を全部経験して身につけた上で、60歳、70歳になつて沖縄に来たときにはその経験を活かして、若手の育成やまちおこし、沖縄の企業やテレビの作り方なんか僕が学んできたものを還元できればいいなと思っています。

沖縄で気になっているのは失業率が高いことです。沖縄の人つて、この会社合わないとかもつと向いていない仕事があるんじゃないかと、つらくなつたらすぐに逃げる人が多いと思います。失業率が高いといいますが、沖縄には仕事はいっぱいありますよ。我慢して一つ壁を乗り越えたら、もつと仕事を楽しんだり自分の才能が開花する可能性もあるかもしれません。働かざる者食うべからずじゃないですけど、ちよつと甘え過ぎじゃないかと思っています。また、沖縄の県民性なのかもしれないけど、出戻りをウエルカムしちゃう。知り合いにも東京で生活して、「ナイチャー（本土の人）は冷たい」とか「こんなところで働けない」つて帰った奴らがいますけど、それは逃げだと思つてるんです。ナイチャーは冷たい？とんでもない。僕は20年も東京にいますけど、本当にあつたかい人がいっぱいいます。

沖縄を観光地としてみて思うのは、まち全体の統一感がなさすぎることです。世界へ行ったりして思うのは、ある程度色が統一されていてまち全



Chiiki no Me

## 地域の目

Series 27

# 世界中の人が沖縄中毒になる島づくりを！

お笑いコンビ「ガレッジセール」 ゴリ

～沖縄は5月15日に本土復帰40周年を迎えます。5月22日が誕生日の「復帰っ子」のゴリさんに、沖縄国際映画祭開催中の3月28日に宜野湾市内でお話を伺いました～

体が美しいんです。でも沖縄は、沖縄っぽいのがあつたり急にアメリカっぽいのがあつたり、東京の真似したりとかばらばらです。これが沖縄だよなというのがないんです。ハワイはまち全体をハワイというイメージ一色に染めていきます。沖縄でも、国際通りに沖縄民謡を誰に聴かせるでもなくただ生演奏している人がいて、人が集まつてくれなくても歩いていたら普通に沖縄の曲が流れているようなことができればと思います。観光地の一番大事なものって非日常感だと思つているので、東京っぽい店があつたりとかしたらだめだと思ふんです。また、シンガポールは近代的なビルがいっぱい建つていますが、どクリン＆グリーンを推進して木もかなり植えているので、閉塞感がなくすごく居心地がいいんです。緑は絶対に大事ですから、沖縄らしいガジュマルとかをたくさん街に植えるのもいいと思います。あと、冬でも常夏が味わえる施設があつたらもつと客が来ると思ふます。正月に芸能人がハワイなんかに行くのは沖縄が寒いからなんです。冬でも沖縄で南国を味わえる、福島にあるような巨大なハワイアンリゾートで沖縄の踊りが見られたりする施設があつたらなと思います。それがあるのと夏は客が来ないじゃないかとなるので、夏にも来てもらうために、沖縄には大きな遊園地がないですから巨大な遊園地と一緒に大きな総合施設があるといいと思います。

人生八十年といわれている中で人生の折り返し地点に来たんだなど。だから生活の仕方も変えていかなければとは思っています。若手の頃は

「熱いお湯の中に入れ」つて言われたら入りましたし、危険なこともいっぱいやりました。がむしろに頑張つてきたからこそ今の地位があるとも思っています。でもこれからはもう少し自分でしっかり仕事を選び、自分から仕事を生み出し作品を作つて発信していく。僕は映画監督という仕事もやらせてもらつていて、今年初めにはショートムービーを自主制作で撮つたんです。自分の表現したいものを映画とかショートムービーという作品で表現することを多くしたいこうと思つています。また、日本全国に沖縄出身のゴリつて奴がいるのは知ってもらえたので、今度は世界に、沖縄出身でこういうエンターテインメントの表現をする奴がいることを知ってもらいたいし、世界の人を喜ばせられるウチナンチュになりたいです。僕にとつて今はそれが映画だと思ふんです。世界の人を笑わせられるような作品を作れたらと思います。

沖縄の人は、沖縄にしかない自然の恵みや美しさを当たり前すぎて、その魅力の本当の価値に気付いていないと思います。沖縄に来たてしょうがなくなくなるような島を沖縄県民でもつとつくつていくべきだと思います。それは都市開発と芸能だとも思います。新しいところに進みながら伝統も守っていく。世界中の多くの人が「ああ、沖縄に行きたくてしょうがない」と思うような、沖縄中毒になる島をみんなで作くり上げていきたいいなと思います。僕もそうなるようにこれから東京で頑張っていきます。